

第116回 経営協議会（定例）議事要旨

日 時 令和元年9月26日（木）13：29～15：44
場 所 事務局特別会議室（4階）

議題1．令和元年度入試業務に係る手当等の支給方法及び入試手当単価表について（資料1）

議題2．平成30年度鹿児島大学自己評価書（案）について（資料2）

議題3．地域の医師確保等の観点からの令和2年度医学部入学定員の増加について（資料3）

報告事項1．令和2年度改組に係る「事前伺い」の結果について（資料4）

報告事項2．令和元年人事院勧告について（資料5）

報告事項3．共同研究講座及び共同研究部門制度の創設等について（資料6）

報告事項4．令和2年度概算要求（対財務省）について（資料7）

報告事項5．平成30事業年度財務諸表の承認について（資料8）

報告事項6．本学教育研究評議会での審議事項等について（資料9）

報告事項7．記者発表事項等について（資料10）

協議事項1．共同獣医学部について

（1）欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）認証取得について（資料11）

（資料一部席上配付：回収）

（2）附属動物病院経営の状況について（資料12）

その他

[出席委員] 15名

佐野学長

（理事）馬場、越塩、岩井、武隈、山木

（学内委員）夏越

（学外有識者）池田、岩切、月野、坪内、津曲、福元、宮原、山野

[欠席委員] 0名

[オブザーバー]

（理事）萩元

（監事）伊牟田、押越

（副学長）森、渡邊

（学部長等）高津、上谷、岡村、河野、木下、橋本、佐久間、宮本、本間、宇都宮

（説明者）三角、有村

議題1．令和元年度入試業務に係る手当等の支給方法及び入試手当単価表について（資料1）

学長から、令和元年度入試業務に係る手当等の支給方法及び入試手当単価表について諮られ、越塩理事から、学力検査員（1.3倍の試験時間）及び問題作成委員（追試）に係る単価の追加並びに全学成績集計委員の手当額の修正等を行うものである旨資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

議題 2. 平成 30 年度鹿児島大学自己評価書（案）について（資料 2）

学長から、平成 30 年度鹿児島大学自己評価書（案）について諮られ、岩井理事から、学校教育法第 109 条第 1 項に基づき、当該大学の教育研究等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表することが義務付けられており、国立大学法人鹿児島大学における自己評価の実施要項に基づき、自己評価書（案）を作成し、年内に大学ホームページにて公表する予定のため審議願いたい旨資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

議題 3. 地域の医師確保等の観点からの令和 2 年度医学部入学定員の増加について（資料 3）

学長から、地域の医師確保等の観点からの令和 2 年度医学部入学定員の増加について諮られ、岩井理事から、平成 31（令和元）年度で終了する医学部医学科の入学定員増の暫定措置について、地域の医師確保のため、令和 3 年度までの 2 年間、その増員分を上限として再度の増員申請が可能となっていることから、医学部と鹿児島県との協議を踏まえ、再申請分 17 名（地域枠 15 名、歯学部振替枠 2 名）に加え、新たに地域枠 3 名を加えた計 20 名の「医学部入学定員増員計画」を文部科学省に提出したものである旨説明があり、審議の結果、了承された。

報告事項 1. 令和 2 年度改組に係る「事前伺い」の結果について（資料 4）

越塩理事から、令和 2 年度改組に係る「事前伺い」の結果について、令和 2 年度に改組が予定されている理学部理学科、工学部先進工学科、同建築学科、理工学研究科理学専攻及び同工学専攻の「事前伺い」について、大学設置・学校法人審議会において審議が行われ、「設置報告書」の提出による設置が可能となった旨資料に基づき説明があった。

報告事項 2. 令和元年人事院勧告について（資料 5）

越塩理事から、令和元年人事院勧告について、給与改定の内容等について説明があり、本年の人事院勧告への対応については、人件費の執行状況等を考慮し、総合的に判断する予定であり、人事院勧告対応の遡及適用の有無等を令和 2 年 1 月頃までに判断する予定である旨資料に基づき説明があった。

報告事項 3. 共同研究講座及び共同研究部門制度の創設等について（資料 6）

岩井理事から、共同研究講座及び共同研究部門制度の創設等について、共同研究講座及び共同研究部門制度の創設に係る関係規則の制定及び学則その他関連規則等について、施行日を令和元年 9 月 1 日として一部改正等行った旨資料に基づき説明があった。

報告事項 4. 令和 2 年度概算要求（対財務省）について（資料 7）

山木理事から、令和 2 年度概算要求（対財務省）について、文部科学省から財務省に提出された内容、本学の概算要求及び施設整備費概算要求等について、資料に基づき説明があった。また、運営費交付金等の予算は、例年 12 月末に文部科学省から示達される旨併せて説明があった。

報告事項 5. 平成 30 事業年度財務諸表の承認について（資料 8）

山木理事から、平成 30 事業年度財務諸表の承認について、8 月 30 日付けで文部科学大臣より承認され、本学ホームページ上で公表した旨資料に基づき説明があった。また、財務諸表を解説した財務レポート「財務諸表の概説」及び「セグメント情報の開示」も掲載したこと、なお、「セグメント情報の開示」は、文部科学省が実施する運営費交付金の評価（共通指標）に対応するものであり、現時点では試行的な開示である旨併せて説明があった。

報告事項 6. 本学教育研究評議会での審議事項等について（資料 9）

学長から、本学での動向等を把握していただくために教育研究評議会での審議事項等を添付し

ている旨説明があった。

報告事項 7. 記者発表事項等について（資料 1 0）

学長から、本学の最近の主な記者発表事項等の記事を添付している旨の説明があった。

協議事項 1. 共同獣医学部について

(1) 欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）認証取得について（資料 1 1）

（資料一部席上配付：回収）

(2) 附属動物病院経営の状況について（資料 1 2）

学長から、今回の協議事項は、共同獣医学部について提案した旨説明があり、引き続き、共同獣医学部長、有村獣医学教育改革室長及び三角副学部長から、欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）認証取得及び附属動物病院経営の状況について、資料に基づき説明があった。

説明の後、各委員から次のような意見等があった。

- ① 鹿児島県は、全国有数の畜産県である反面、感染症のリスクが高まっており、感染症の防疫体制には獣医師の存在は不可欠であり、獣医学教育の充実、国際教育認証保証が重要になる。畜産基地と野生動物を有することにより、他大学が取得していない国際認証取得が非常に有利になるので、是非 12 月に EAEVE 認証を取得していただきたい。
- ② 大学として感染症諸問題の研究を進める必要がある。また、ペットとの癒やしの問題の研究もこれから非常に重要になってくるので、その分野にも研究分野を広げていただきたい。これは獣医学部だけではなく、色々な所との共同研究になってくるので、そのことも踏まえて発想を広げてやっていただきたい。
- ③ 世界レベルの獣医学のシーズ及びニーズが生まれようとしているので、共同獣医学部だけではなく、理工学系の学部等が関心持つことで面白い研究ができるのではないかと。また、地元には沢山のテストフィールドもあり、ニーズもあるので、他の学部と絡んだらもっと面白くなると思う。
- ④ 鹿児島県も、EAEVE 認証に向けた鹿児島大学の取組について、全面的に応援したいと思っている。認証取得へ向け、また、認証取得後も色々と連携し、他に取り組める分野があれば、できる応援はさせていただく。
- ⑤ 産業動物で収益をもっと確保できるように積極的に取り組むことが動物病院の更なる発展に繋がると思う。また、EAEVE 認証を取得すれば、全てが解決するのでは必ずしもないと思う。これはスタートであって、それを受けて、当初の目的である、国際的、社会的リーダーとして活躍する獣医師をどう育成するかについては、更に細かな戦略が必要ではないかと思うので、そういった観点からも取り組んでいただきたい。
- ⑥ 入学希望者に対して、EAEVE 認証を取得している獣医学部である、他大学とは違うということを広く周知いただきたい。また、身体障がい、あるいは疾患のある受験者に対する実習等含め周知すれば、鹿児島大学共同獣医学部を受験するという気持ちになる受験生が、県内だけではなく全国的に増えるのではないかと。
- ⑦ 共同獣医学部は、ハードな面で充実を図り、EAEVE 認証取得という意味ではソフトの面でも充実を図れる見通しが立った。そのハードとソフトを地元の畜産業にどういう面で貢献していくか明確にされた方が良い。その一つは感染症予防の面で今後どう進めていくかということである。地元の畜産業に対し、今後、充実したハード、ソフトでどのような面で貢献していくか、もう少し明確に項目立てていただきたい。
- ⑧ 鹿児島県の牧場等の向上も考える必要がある。そこで飼われている牛、豚のことを考えると、獣医師がどんなにレベルが高くても、飼われている環境が悪ければ問題である。また、牛、鳥、豚が育っていく産業衛生は、鹿児島の畜産業向上のためには非常に重要だと感じて

いる。

その他

次回（定例）は、令和元年11月28日（木）13時30分からとなった。